海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰

「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」等の受賞者を紹介します。

本表彰事業は、沿岸域の住民、船舶の利用客等、海が大好きな皆様による、海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民の皆様により一層海への親しみを深めていただくとともに、海の利用・開発、海洋環境保全への理解と協力を得て海洋・海事思想のより一層の普及を図ることを目的として、毎年、国土交通大臣及び各地方整備局長等が行っているものです。

以下、平成29年度の国土交通大臣表彰受賞者（地方整備局関係）及び地方整備局長表彰受賞者を紹介するとともに、その取り組み内容を一部紹介させていただきます。

平成29年　海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰受賞者一覧（地方整備局関係）

国土交通大臣表彰

受賞者名	ブロック名
渡邉満洲（ワタナベマンシュウ）	東北
渡邉トシ子（ワタナベ）	東北
神栖市立波崎第四中学校	関東
旭市立三川小学校	関東
鵠沼地区生活環境協議会	関東
三国サンセットビーチ振興会	北陸
堀岡児童クラブ協議会	北陸
ヤマサちくわ株式会社	中部
田原市立泉小学校	中部
沙美西町内会	中国
仁尾町老人クラブ連合会	四国
福岡市立志賀島小学校	九州
日南市立日南東郷小中学校 PTA	九州

各地方整備局長表彰

受賞者名	ブロック名
青森県港湾空港建設協会八戸支部	東北
仙台クリーンＥＮＥＯＳ	東北
三種町立八竜中学校	東北
酒田市立宮野浦小学校	東北
酒田市立第四中学校	東北
鹿嶋の海岸を守る会	関東
木更津市立金田小学校	関東
ハマの海を想う会	関東
三重県立聾学校	中部
ネイチャーズ新海浜	近畿
びわ湖の水と地域の環境を守る会	近畿
江井島の海と子供を守る会	近畿
岬町小島地区まちづくり推進協議会	近畿
和歌山市立加太中学校	近畿
荘内バレーボールスポーツ少年団	中国
鳥取県漁業協同組合境港支所	中国
須佐湾エコロジーキャンプ場管理組合	中国
美波町立由岐小学校	四国
美波町立伊座利小学校・由岐中学校伊座利分校	四国
三豊市立曽保小学校	四国
すくも湾漁業協同組合	四国
藻津漁業協同組合	四国
愛媛県立伯方高等学校	四国
山口県立下関工業高等学校、山口県立下関工科高等学校（連名）	九州
リョーユー幼稚園	九州
ＮＰＯ法人シートラスト	九州
大多尾地区振興会	九州
森下　誠	九州
井上　弘美	九州

東北地方整備局　●酒田市立宮野浦小学校

未来へ残そう、宮野浦の宝 ～宮野浦海岸クリーンアップ作戦～

山形県酒田市宮野浦地区は、西に日本海、東に最上川を望み、周囲を防砂・防風林の黒松林に囲まれ、自然に恵まれた地域です。学校の窓からは、酒田市市街地が一望できます。

冬には、出羽大橋の下に北風に乗って白鳥が飛来し、訪れる市民の目を楽しませてくれます。近くの飯盛山の麓には、土門拳記念館・出羽遊心館・市美術館の文化施設があり、平成13年4月には、市民念願の四年制大学の東北公益文科大学が設立され、酒田市の文化ゾーンに成長しました。

宮野浦地区は、酒田市発祥の地としての伝統を持ち、人々は漁業を主とした生活を営んできた歴史をもっています。

本校では、港町酒田という環境を活かした体験学習を通して、豊かな感性と主体的な行動ができる子ども（しなり強い子）を育成するための地域と一体となった教育実践を積んでいます。

その一つが、第5学年の総合的な学習の時間の、生き生き飛島スクールに係る「マリーンスクール」です。この活動は、宮野浦海岸に出かけ、漂着ゴミを集め、その仕分け作業を通して「海洋資源を守ること」と「環境保全」などについて気づき、飛島の海岸と比較し学習をより深化させていくものです。

もう一つが、「宮野浦クリーンアップ作戦」です。宮野浦学区自治会と宮野浦子ども会育成会（宮子連）、宮野浦小学校、酒田市立第四中学校などが連携し、ボランティアの動員を図って行う海岸清掃活動です。この活動は平成14年より6月下旬の日曜日に毎年実施しているものです。平成28年度「第36回全国豊かなうみづくり大会」が庄内地方で開催されたことを契機に、祝日の「海の日」に合わせて実施するようになりました。

この活動を通して、児童・生徒は、環境保全の心を育て、地域貢献の意義、重要性に気づくことができるようになりました。また、保護者は子供たちの未来のためにも、地元が主体となって美しく豊かな海と庄内浜を守り続ける必要があることに気づくことができるようになってきました。

ふるさとの海に関心を持ち、誇りに思う児童が以前にも増して広がっているようで、大変嬉しく思っています。

関東地方整備局　●鵠沼地区生活環境協議会（神奈川）

「湘南海岸を守る」～鵠沼海岸清掃ボランティア活動～

鵠沼地区生活環境協議会は、鵠沼地区住民の生活環境を良好に保全し、更にこれを推進するために市の行政に対応して、これの実現をはかることを目的に活動している団体です。会員は、鵠沼地区に居住する住民で構成され、自治会長及び自治組織の環境担当者を中心に活動しています。

鵠沼地区は藤沢市の南部に位置し、相模湾に面しています。ここには海水浴場が広がり、波静かで遠浅なビーチとして人気を博しています。

本会では、地区住民及び多くの観光客が訪れている湘南海岸の保全を目的に年3回の海岸清掃を実施しています。

1回目は毎年4月に実施しており、これは、隣接する片瀬地区とともに行っているもので、片瀬海岸、鵠沼海岸の清掃を行います。

2回目は、5月に実施しているもので、「ゴミゼロクリーンキャンペーン」として、市で取り組んでいるものです。

3回目は9月に実施しており、これは、海水浴シーズンを終えた後の鵠沼海岸を清掃する活動で、鵠沼地区生活環境協議会が単独で行っているものです。

藤沢市の江の島・鵠沼海岸が全国各地から多くの観光客が訪れ、「日本の白砂青松」の地として風光明媚な景勝地であるとの印象を持っていただけることは、大変有意義なことと思うところであります。

ここ湘南海岸は、地区住民にとりまして、憩いの場として、また、なくてはならない大切な財産であると考えております。この貴重な海岸を守り、さらに一歩進めて、昔のような自然あふれる美しい海を手に入れたいと思います。

本会は、今後も地区住民の皆様と力を合わせて、美しい海岸線、また、海を守るために、海岸清掃活動を継続していきたいと思います。

北陸地方整備局　●三国サンセットビーチ振興会

三国サンセットビーチ振興会のビーチにおける取り組み

日本海のちょうど真ん中辺りに、位置する三国サンセットビーチ。北には名勝東尋坊、南は九頭竜川と北前船,越前蟹漁で有名な三国湊があります。美しいサンセットが自慢で、四季を通じ、たくさんのお客様に愛されるビーチです。私たち三国サンセットビーチ振興会は、ビーチに位置する旅館・民宿、浜茶屋、日帰り温泉、CAFÉ、ケーキ屋、ハンバーガー屋、サーフショップ等の約３０店舗によって昭和の中ごろから運営されてきました。海水浴場の設置や安全管理、イベントの開催など数々の事業の中心となるのが、ビーチクリーンです。

ビーチには四季折々、色んなゴミが漂着します。荒れ狂う冬の大波に乗って、日本海に漂うゴミの大群がビーチにやってきます。漁具をはじめ、ペットボトルや家庭ゴミ、注射器などの医療廃棄物、テレビに冷蔵庫、ガスボンベ？それらのゴミにはハングル語や中国語の表記が。ゴミは遠路はるばる、日本海を渡り大陸から旅して来る招かざるお客様たち！早春のちらつく雪の中、驚くほど沢山のゴミとの闘いが、私たちの一年の活動の幕開けです。

そして、初夏、波が穏やかとなる海からのゴミはひと段落しますが、多量の雨で九頭竜川上流からのゴミが一気に流れてきます。昔は有機物中心で、河川敷で留まって少しずつ流れてきたのですが、近年悪化、プラゴミと混在する葦の処分が課題です。夏期は毎日清掃、お客様が持ち込まれる花火やコンビニゴミ等、海水浴場で「ちびっこ宝探し」というビーチクリーン啓蒙活動イベントを15年に渡り実施した効果もあり、減少しています。

また、最近は企業のCSRや学校行事の一環としてのクリーンアップ活動が増加。日程管理から、分別回収のお願い、ごみ袋の提供、行政へのごみの処分依頼等も事業のひとつ。県、市の担当部署のサポートも手厚く、ビーチクリーンアップ活動の普及を実感しています。

中部地方整備局　●ヤマサちくわ株式会社

ありがとう！「海・人・故郷」～表浜海岸清掃活動～

当社は愛知県豊橋市を中心に、ちくわ、蒲鉾等の水産練り製品を製造販売しております。20年前、創業170周年の記念事業として、地元への感謝の気持ちを行動で表現しようと海岸清掃活動を始めました。以来、一度も欠かすことなく20回、毎年実施を続けております。当社のちくわ作りに欠かせないのは新鮮な魚です。この魚を育む母なる海に感謝しながら活動することで、社員の気持ちが豊かになることを実感しています。

豊橋市の海岸は、愛知県の南端、遠州灘に面した渥美半島の東に位置する約14ｋｍの直線的な砂浜海岸です。表浜海岸と呼ばれるこの清掃場所は、創業当初、原料魚の主漁場でした。池田輝政が吉田城主の時代、伊良湖から新居までの「片浜十三里」と呼ばれた地域で獲れる魚はすべて、安海熊野社の境内に集めて売買をしなければならないというお墨付きが出されました。この安海熊野社の位置するところは、当社が本店を構える現在の豊橋市魚町にあり、豊橋でちくわ作りが盛んになった一つの理由になりました。

活動を始めた頃は、トラックにゴミが乗り切らず、何回も市の処理施設を往復しなければならないほどの量が落ちていました。しかし、年を追うごとに世の中のボランティア意識が高まり、他の多くの団体も同様の清掃活動を行うようになりました。そのお蔭で以前のようにゴミが大量に放置されることはなくなりました。実際、清掃活動をしていると、海にいたサーファーや地元住民の方が飛び入りで参加してくれることもありました。今ではトラック一台分もないゴミの量に減りましたが、さらにきれいな状態の海になるよう願っています。

おかげさまで今年、創業190周年を迎えることが出来ました。次の大きな節目、創業200周年に向け、これからも地域に密着しながら、このような活動を積極的に取り組んでいきたいと考えています。

近畿地方整備局　●和歌山市立加太中学校

みんなで守り、未来に残そう、『加太』の海 ～加太海岸清掃ボランティア活動～

本校の校区は、和歌山市の北西の端に位置し、紀淡海峡に面した美しい海岸線があり、鯛の一本釣りなど魚釣りのメッカです。また、雛流しや針供養で有名な淡嶋神社があります。海水浴やサーフィン、キャンプなど、マリンレジャーを楽しむ方が多く訪れています。近年、加太の向かいに浮かぶ「友ヶ島」がブームになり、加太港から船で訪問する観光客が増加しています。

本校は、近年、地域の若年人口の大幅な減少に伴い、本年度は全校生徒が43名で、和歌山市で最も小規模な中学校です。地域は、「海」と密接に関係していることから、生徒の父母、祖父母には、漁業や観光業に従事している方がたくさんおられます。

そこで、本校では、約40年前から地域の大切な海を守るために、観光資源でもある加太海岸を中心に、海水浴シーズン前の時期に、全校生徒が清掃活動に取り組んできました。開始当時は本校には、約400名近い生徒が在籍し、保護者や地域の方々に、ごみ回収用のトラックを用意していただくなどのご支援をいただき、大量のごみを回収するなど大規模な清掃活動でした。

これらの取り組みは、教育的意義の高い学校行事として定着し、今日まで毎年、恒例の行事として実施してきました。この活動を通して、生徒たちは、環境保全の大切さや勤労の喜び、地域貢献の重要性など、多くの事を学んできました。また、自分たちのふるさと「加太」を愛する心の育成にも繋がっています。

近年、生徒数が大幅に減少しているため、活動の規模は年々小さくなっていますが、今後も加太観光協会や加太漁業協同組合、各種ボランティア団体、地域の方々の温かいご支援を頂きながら、この大切な活動をいつまでも継続し、子供たちの貴重な学習の場としたいと考えております。

中国地方整備局　●荘内バレーボールスポーツ少年団

玉野市「渋川海水浴場」日本の渚百選、快水浴場百選
日本一のおもてなしをめざし　渋川海岸清掃ボランティア活動“30 年”

玉野市立荘内小学校は、荘内平野のほぼ中央に位置し、盆地でありながら、玉野市で一番大規模であり、全校児童は現在691名の、今年で130周年を迎える伝統のある小学校です。

荘内バレーボールスポーツ少年団は創部43年を迎え、私が団長になって30年になりますが、部員数も今は少なくなり18名です。

玉野市には、“日本の渚百選”、“日本の快水浴場百選”にも選ばれる県下最大の渋川海水浴場を有しますが、私たち荘内バレーボールスポーツ少年団は、30年前、団員自身として世の中の役に立つことはできないものかと話し合い、その結果、多くの浴客でにぎわう渋川海水浴場の清掃活動をしようと意見が一致し、それ以降、現在まで続けられているところです。

未来のために今何が出来るのか、新しい時代を切り開き、将来を担っていく豊かな人間性と創造性を備えた青少年の育成は、私ども荘内バレーボールスポーツ少年団の願いでもあります。

近年、青少年を取り巻く環境は、社会経済の大きな変化などにより、地域社会や自然との触れ合いが十分でないともいわれています。

このため、青少年が心身ともに健全で自己の行動に自覚と責任を持ち、人間性豊かな市民として成長するよう、家庭、地域、学校、行政が一体となって、青少年の健全育成に取り組むとともに、相談、指導、対話の充実の一環として、清掃奉仕活動を行っているところです。

これからも、この清掃活動を通して、ボランティア活動、おもてなしの心が育ち、このことを誇りに思う心が児童の皆さんに拡がり、自然を愛し、海を愛し、何が大切かを思う心を育てていくことや、自ら感じる心を大事にしながら、地域活動の在り方を含めて、引き続き継続されることを願ってやみません。

砂浜のごみを拾う荘内バレーボールスポーツ少年団員

渋川海水浴場
きれいに清掃
荘内バレースポ少

荘内バレーボールスポーツ少年団は17日、渋川海水浴場で恒例の清掃活動を行い、団員や保護者ら約50人が砂浜に落ちたごみを拾い集めた。

参加者は、海水浴客が訪れる前の午前8時に集合。火ばさみとごみ袋を受け取り、砂浜の東西両端に分かれて中央部へ移動しながら作業した。

この日は時折強い雨が降るあいにくの天気だったが、参加者は砂浜に打ち上げられた海藻、ポイ捨てされた空き缶などを約40分かけて回収。副主将の荘内小6年長崎美羽さん(12)は「ごみは去年より少なかった。海水浴客がきれいな砂浜で過ごせるようにと思って拾った」と話していた。

同少年団は奉仕活動の一環で、30年以上前から渋川海水浴場の清掃を行っている。（正本和臣）

山陽新聞 平成28年7月22日(金)朝刊

四国地方整備局　●香川県三豊市仁尾町老人クラブ連合会

平成 29 年 海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰に寄せて

私たちの仁尾町は、香川県西部荘内半島の西側付け根に位置し、東・南・北が七宝山脈に囲まれ、西に瀬戸内海ひうち灘海域を望む青い海、指呼の間に浮ぶ島々、そして白砂の海辺、とても恵まれた自然景観と調和した港まちです。右手には西日本有数の規模と設備のある仁尾マリーナが、左手は広々とした遠浅の海岸線、そこに父母ヶ浜と呼ばれ、夏は良き海水浴場でもある海辺があります。

夕景もまた、ひときわ美しく、そこに立つ人をして、自然と人生の語らいに、しばし時を忘れるロケーションです。

平成の町村合併により、三豊市仁尾町となりましたが、優れた景観、環境は変りません。

そんな町に、昭和39年4月発足した仁尾町老人クラブ連合会。当時会員は434名、老人の生きがい対策として、数々の課題を活動方針とした中で、会員の殆んどが、我が町の、とりわけ海の自然景観の保全や環境美化への思いが強く、先ずは海をきれいにと、海岸線や港周辺等々の清掃奉仕活動を力点に、自主、積極的に、年1回とは言え、毎年海開きを前に、会員総出で、清掃奉仕の社会活動を、実に50年有余にわたり、続けて今日に至っています。

今更ながら、故人を含め歴代会長・役員そして会員各位の不屈の奉仕精神と、種々雑多なゴミ集めのかんなん辛苦、地域貢献に、格別の敬意と感謝の念を禁じ得ません。

ただ、今では、更なる高齢化が進み、参加会員の激減が残念です。

今般、当連合会の多年にわたる奉仕活動が、国土交通省四国地方整備局のご推挙を得て、本年7月“海の日”に国土交通大臣表彰の栄誉を頂き、会員一同心よりお礼申し上げ、今後の活動の糧といたします。

有難うございました。

九州地方整備局　●山口県立下関工業高等学校・下関工科高等学校

響きの灘を窓に見て ～ふるさとを守る地域清掃ボランティア活動～

本校は、本州の西端に位置する下関市の響灘に面した工業高校です。校舎の3階からは、下関の美しい海を一望することができ、四季折々の豊かな自然と、太陽の光に包まれて輝く日本海に見守られながら、日々の学習活動に励むことのできる恵まれた環境にあります。

平成28年4月に、下関工業高校と下関中央工業高校の県立2校が統合となり、新しく工科高校として生まれ変わった学校です。工科高校は、工業全般の専門学科が揃った山口県下最大規模の工業高校であり、これからのものづくり産業を支える技術と人間力を学ぶことができる学校として歩み始めております。昭和14年創立である下関工業高校の校歌は、「人寰遠く海近く　松青くして砂白き」という歌詞から始まり、海の育みを受けながら発展してきたことがうかがえます。そして、海とともに成長していく精神は、下関工科高校の校歌においても、「響きの灘を窓に見て　理想も高く語る夢」と歌われており、本校の土台として、しっかりと引き継がれております。

本校では、平成19年度から、全校による「地域環境ボランティア」の行事を実施しており、年度末の3月に、安岡海岸を含めた学校近隣の地域を清掃する活動を続けております。この活動は、環境教育の一環として、①地域社会への感謝と貢献、②環境への関心と環境保全、③ボランティア活動への意識の高揚、という目的を掲げており、今年で10年目の活動となります。平成28年度の清掃活動では、約2時間半の活動で、可燃物約60袋、不燃物6袋、棒きれ約10束等のごみを回収することができました。この活動が本校の伝統として徐々に定着しており、この行事のときだけでなく、委員会活動や部活動の中でも海岸清掃等を行うようになり、生徒たちの主体的な行動に期待と喜びを感じています。

本年度の九州地方整備局長表彰をいただき、工科高校の幕開けとして、この地域活動を引き継いでいくことができることに、大変嬉しく思っております。この青く美しい海に囲まれた、すばらしい下関の自然を、未来へと責任をもって伝えていく学校へ、そして、一人ひとりが海を守っていく人として、使命感をもち、これからも成長し続けていきたいと願っております。